

さんは、福岡で鳶職を3年間経験後、1992年23歳のとき、本で見た熊本『小代焼ふもと窯』の井上泰秋氏に師事する。土の作り方、窯の焚き方、ろくろ仕事などの基礎をみっちり学んだ。「修業時代は、毎日ひたすらろくろを回して、1日に300(個)はつくっていました。」

5年が過ぎたころ、今度は鳥取県『岩井窯』の展示を見たことをきっかけに、1998年29歳のときから1年間、鳥取県『岩井窯』の山本教行氏に師事する。日中は山本先生のお手伝いをし、仕事が終わると自分の制作をしていたそう。「昼間は、掃除や草むしりや、お茶出しなど身の回りのこともしていました。」山本先生とすごした生活は、技術はもちろんのこと、表現方法や精神性を培われたという。「先生と一緒にいて『発想の源』になるものがわかってき



十郎さんが取材日前日に成型した飯椀。



蹴(け)ろくろの周辺にはお子さんの写真などが飾られている。

齊藤十郎
さいとう・じゅうろう / 1992年より熊本県小代焼ふもと窯の井上泰秋氏、1998年より鳥取県岩井窯の山本教行氏に師事。1999年に岐阜県朝日村にて独立。2004年静岡県伊東市に移転し現

たんです。」

1999年30歳のときに岐阜県飛騨高山の朝日村にて独立後、愛知県の知多半島を経て、今の伊東に工房を構えた。「飛騨高山はとても寒くて、器が凍って割れることもよくありました。ここ(伊東)は、海も近いし気候もいいし、東京にも近くて気に入っています。」

器を作るときに気に留めていることを聞いた。「特別なことをするのはなく、並べたときに違和感のないものがないと思っっています。例えば食器で言えば、主役は料理ですので器は引き立て役です。器の主張が強すぎると料理を盛ったときに、ちぐはぐになってしまいます。」

そのような、違和感のない器をつくるにはどうすればいいのだろうか。十郎さんはうーんと考え、言葉を選びながら口をひらいた。「作為をもって、こんな

のをつくってやろう、とすると

なんだか違和感がでてしまうので、考えすぎず自然体でつくと良い器ができます。」そのために、日頃の生活では自分が良いと思ったものは、アフガニスタンのお皿も、コーヒーシヨツプのプラスチックのカップも、ラジコンカーも、瀬戸の馬の目皿も、よく目につくところに置いてあるという。「こうしておくと、そのものの力、例えばこのカップの綺麗な角度であったりとかを、自然に自分の中に吸収することができるんですよ。」

なるほど、自然体でつくるといふことは、日常生活も常にアイドリング状態で自分の創作に向き合い続けているということのようだ。



写真奥の水玉模様の器は、沖縄出身の陶芸家である人間国宝の故・金城次郎作。左の大きい器は、瀬戸の馬の目皿。

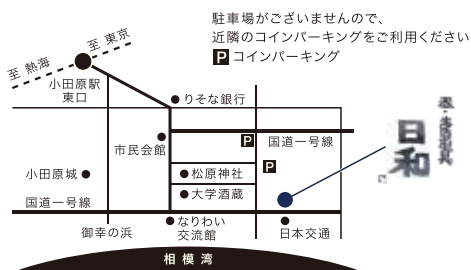
おとなりさん
×
日和

Juro Pottery の イッチン小鉢

齊藤十郎さんの、使い勝手のいいイッチン小鉢を、おとなりさん用に、たくさんご用意していただきました。是非この機会に、お気に入りを見つけにきてくださいね。



イッチン小鉢 各¥1,296円



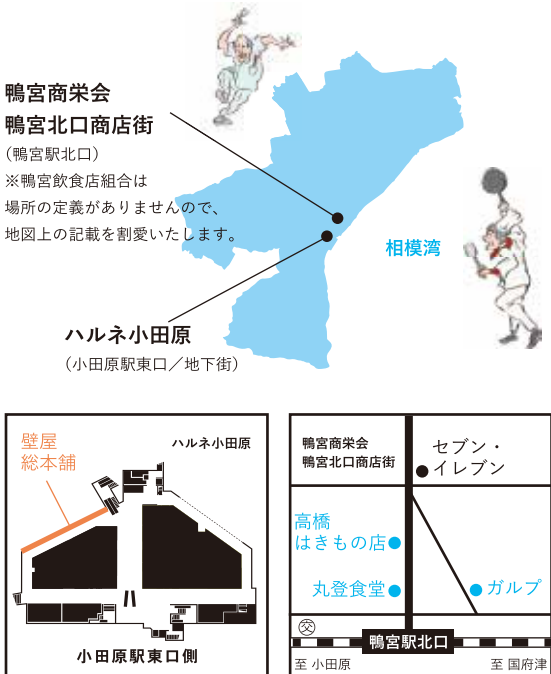
器・生活雑貨 日和 小田原市浜町3-1-22 (かまぼこ通り)
営業時間 / 11:00~17:30
月曜・第3日曜定休 (仕入れにより不定休あり)
電話番号 / 0465-22-0226 <http://hiyorijp.com>

*期間中の営業時間やお休みは、日和さんのブログをご参考ください。
*今回の商品は、おとなりさん通販部ホームページ (<http://otonarisan.theshop.jp/>) からご注文いただけます。

期間: 2016年2月13日(土)~20日(土)
場所: 「器・生活雑貨 日和」

広告

【市内5紙合同企画】この企画はシロマチおだわらプレミアム商品券実行委員会が企画し、アンジュ、おとなりさん、タウンニュース小田原、トリコ、ポスト広告(五十音順)の5つのミニコミ紙の記者がそれぞれ各商店街を取材し、各紙の特色を生かした独自の切り口で掲載する合同企画です。各紙の掲載予定号のスケジュールは以下の通りです。
アンジュ 65号(2月24日水)発行、2月26日(金)新聞折込み、おとなりさん 冬号2月1日発行、タウンニュース小田原 1月30日号、トリコ 2月号、1月27日発行、ポスト広告 2月5日号(すべて2016年) 問い合わせ シロマチおだわらプレミアム商品券実行委員会事務局 ☎0465・23・6660 (合同会社まち元氣小田原)



お礼のごあいさつ
柏木 裕美子さん
サポートコンシェルジュ
単価が合う物が多く、たくさんの方にプレミアム商品券をご利用いただきました。ありがとうございます。出店希望もお気軽に相談ください。

壁面を利用したレンタルボックス。141のブースがあり、バザープロの作家やシヨツプを持つ方など様々。1ブース月額2500円 + 売り上げの15%で利用できる。

買う派? 売る派? 一点物のプレミアムな手作りグッズ
壁屋総本舗 ハルネ小田原

営業 / 10:00~20:00
1月1日休み
☎0465-44-4656 壁屋総本舗運営委員会 (合同会社まち元氣小田原)